

PLES Report No. 29

慣用表現力を鍛える： 断る・反論を述べる

田中茂範

PEN言語教育サービス

英語で会話をしていてむずかしい場面は、何かを断る場合と反論を述べる場合だと思います。どちらも、下手をすると相手の顔をつぶしたり、相手を不快な気持ちにさせたりする可能性があるからです。ここでは、上手に「断る」と「反論する」ためのやり方をみていきます。

断る (refusing)

まず同じ断るといっても、「依頼（頼みごと）を断る」と「申し出・勧めを断る」があります。まず、頼みごとを断る場合をみてみましょう。例えば Rex が仲のいい友人 Jim に Could I borrow your car? (車貸してくれない?) と頼まれたとします。Rex は、はっきり No way! (ダメ!) と応じます。もちろん、一度断っても、相手が簡単に引き下がるとは限りません。

Jim: Rex, could I borrow your car? ねえ車、貸してもらえないかな

Rex: No way. ダメだね

Jim: Come on. It's just a company car. いいじゃない。会社の車だろう

Rex: I can't. I'm responsible for it. 無理だよ。ちゃんと責任があるんだから。

Jim: Just for two hours. Please... 2時間だけ、お願い。

Rex: Look, I wish I could, but I'm sorry I can't. うん、できればそうしたいだけで、ゴメン、無理なんだ。

このやりとりの中に注目すべきことがいくつか含まれています。まず、Rex の No way. ですが、「ダメ」とか「無理」という意味合いです。これは、親しい間柄でなければまず使いません。しかし、Jim はそれで諦めず、「いいじゃないか。どうせ会社の車だろう」と迫ります。ここで Rex は理由を述べて、「無理だよ。ちゃんと責任があるんだから」と断ります。さらに、相手は「2時間だけ、お願いだから」と懇願しますね。それに対して、Rex も「できればそうしたいんだけど、でも、ゴメン、無理なんだ」と相手の立場を尊重しつつ、やりわり断ります。

すなわち、何かを断る際には「理由を述べる」と「相手の立場を尊重する」の2つがポイントということです。相手の立場を尊重しながら断るには、「すみません」とか「残念ながら」と申し訳ない気持ちを表現する方法と、「できればそうしたい」と自分としては受け入

りたいという気持ちを表現する方法があります。英語では、以下の表現がその典型例です。

I'm sorry I can't. (すみません、ちょっと無理なんです)

I'm afraid I can't. (残念ながら無理なんです)

I'd be happy to, but I just can't. (喜んでそうしたいんですが、でも無理なんです)

I wish I could, but I'm sorry I can't. (そうできたらいいんですが、すみません、無理なんです)

以下は、上司に、「今週の土曜日に仕事頼めるよね」といわれ、「残念ながら、それはできないです。妹の結婚式に出席することになっているんです」と断る場面です。

A: Can you work this coming Saturday?

B: I'm afraid I can't. I'm going to my sister's wedding.

もうひとつ、何かを断る際には、相手を納得させるため、断る理由を述べるのが求められます。この例でも、「結婚式に行くこと」が理由になっています。例えば *Could you help me with this statistical analysis?* (この統計分析を手伝ってくれない) と頼まれて、*I'm sorry I can't.* (ごめん、できません) と断ったとします。「申し訳ないけど」という気持ちが表現されていますが、これだけだと相手は納得しないでしょう。そこで、*I'm sorry I can't. I don't know much about statistics.* (ごめん、むりなんだ。僕自身も統計は詳しくないんだ) のように、手伝えない理由を述べる必要があります。さらに加えて、*Why don't you ask John? He knows everything.* (ジョンに聞いてみたら。彼ならなんでも知っているよ) と提案をしてあげるとなおいいですね。

さて、*I'm sorry I can't.* は依頼を断る際の表現ですが、「申し出や勧めを断る」という場合は、*I'm sorry I can't.* では不自然です。例えば、あなたが同僚の山田君に何か至急話したいことがあるとします。しかし、今日は仕事で動けないとします。あなたの状況を知っている別の同僚の渡辺君が「山田君に君が話したいことがあるって伝えようか」と申し出ます。しかし、あなたは、「いやいいよ、僕が自分でいうから」と応じます。英語だと次のようになるでしょう。

A: Would you like me to tell Mr. Yamada you want to have a talk with him?

B: No, thank you. I'll tell myself.

この例に見られるように「申し出や勧め」を断る際の定番は、「感謝の意」を示すということです。上の *No, thank you.* は「いや大丈夫。ありがとう」ということですね。他にも以下のような表現が使われます。

Thank you very much for the offer, but … (申し出はとてもありがたいのですが)

Thanks for asking, but … (たずねてくれて本当にありがたいんだけど)

It's very nice of you to ask, but … (たずねていただいてお気持ちはうれしいのですが)

「感謝の意」を示すだけでなく、以下の例のように I'd really love to, but… (できればそうしたいが…) という気持ちを示しつつ断るやり方もあります。

A: Would you like to dinner with Ms. Yamada and me? 山田さんと私と一緒に食事をしませんか。

B: I'd really love to, but I already have plans for dinner. ぜひそうさせていただきたいところですが、夕食の予定が入っています。

断る

依頼を断る

- 申し訳ない気持ちを表して断る

I'm sorry I can't.

- 理由を述べて断る

I'm sorry I can't. I have to attend…

I have to attend …

申し出・誘いを断る

- 感謝しながら断る

Thank you very much for the offer, but..

Thanks for asking, but …

It's nice of you to ask, but …

- 「ぜひそうしたいところだけど…」と断る

I wish I could, but …

I'd really love to, but …

反論する (disagreeing)

次に、反論の仕方を見ていきましょう。ある意見に対して反論する際の最も直接的な言い方は以下の通りです。

I disagree. 反対です

No, I don't agree. いえ、賛成できません

I have an objection. 反論があります

I'm against the plan. その案には反対です

例えば、以下では、「若い人のほうが年配者よりもこの仕事には向いている」という A に対して、「反対ですね」と応答する例です。

A: I think the younger people are more suitable to this job than the older ones.

B: Well, I disagree.

このように、賛否両論がある議論などでは、反対であることをはっきりと言明することは決して失礼なことではありません。しかし、反論されることは、相手にとってうれしいことではありません。下手をすると相手の気分を害してしまうことになりかねません。そこで、以下のように、相手を傷つけないように配慮した言い回しが求められます。

Actually, I'm a little bit concerned about your way of making decisions. 実を言えば、あなたの決定の仕方にすこし懸念があります。

I don't mean to argue with you, but you should give sufficient consideration to the cost performance. 議論をふっかけようというわけではありませんが、コスト・パフォーマンスにも十分に配慮していただきたいと思います。

ここでは、相手の言っていることと言下に否定することなく、「相手の気持ちはわかるがそれでも…」という部分的に否定する形になっています。つまり、相手の意見を立てて、相手と異なる自分の意見を述べるという方法です。例えば、以下をみてみましょう。

A: The Chinese restaurant is reasonable, but I don't like the atmosphere. そのチャイニーズレストランは、値段は手頃だけど、雰囲気が気に入らないな

B: I see what you mean, but I like it because you get such a wide variety of dishes to choose from there. それはわかるけど、ぼくは、そこではいろいろ選べるから好きだな

もうひとつ例を挙げます。以下は、男女差について女性のAが感情的に発言したことに対して、Bがやんわりと応答する場面です。

A: It's absolutely men's fault that women are oppressed. 女性が抑圧されているのは絶対に男性の責任よ！

B: Yes, I understand what you mean, but I also think women who accept it help to perpetuate the problem. たしかにそうです、でも、女性がそれを容認していることが問題を長引かせるのだとも私は思います。

ここでBは、相手の立場に理解を示しつつ、自分の意見を述べることで、相手に理性的に考える機会を与えるような表現をしています。I understand what you mean, but ..の代わりにI agree with you up to a point, but … のように「ある程度は賛成ですが」と持っていく方法も

あります。

また、「相手に自分の意見の再考を促す（相手の意見を質す）」際には、以下のように Yes, that makes sense, but what about …?などもよく使われます。

A: I think private medicine should be an option for anyone who wants it. 民間による医療も受けたい人には選択肢の1つにすべきだよ

B: Yes, that makes sense, but what about people who cannot afford to pay for it? ええ、それはもっともです。しかし、その費用を払う余裕がない人たちはどうなるのでしょうか。

ここでは相手の意見を質すのにやんわりと表現していますが、もっと直接的には The fact of the matter is …（実際問題としては）、I think you're mistaken.（間違っていると思います）などがあります。

もちろん、考えられない意見を示しているとか、自分とは真っ向から意見が異なるとか、無理難題をぶつけてきているとかいった場合には、That's out of the question.（論外だ）とか That's impossible.（そんなのありえない）のように、感情的に反論することもあるでしょう。

否定する時の慣用表現ネットワーク

① きっぱりと否定する

I disagree. 反対です

No, I don't agree. いえ、賛成できません

I have an objection. 反論があります

② やんわりと否定する

You could say that, but .. そうともいえるけど

I agree with you up to a point, but … あるところまでは賛成だけど

Well, I see what you mean, but … うーん、君のいいたいことはわかるけど

③ 論外だと感情的に否定する

That's out of the question. それは論外だ

That's impossible. そんなのありえない

You're out of your mind! 正気じゃないよ

④ 相手の意見を質す

I think you're mistaken. 君は間違っていると思うよ

The fact of the matter is … 実際問題としては

May I just mention that …? ちょっと一言いいたいのですが